



日本子ども学会が 「日本学術会議協力学術研究団体」に なりました。

2019年9月より、日本子ども学会は「日本学術会議協力学術研究団体」の指定団体となりました。

「日本学術会議協力学術研究団体」は、日本学術会議と各団体との間で緊密な連携・協力関係を持つことを目的として、平成17年10月に設けられたもので、指定には①学術研究の向上発達を主たる目的として、その達成のための学術研究活動を行っていること、②活動が研究者自身の運営により行われていること、③構成員（個人会員）が100人以上であり、かつ研究者の割合が半数以上であること、④学術研究（論文等）を掲載する機関誌を年1回継続して発行していることなどが必要です。

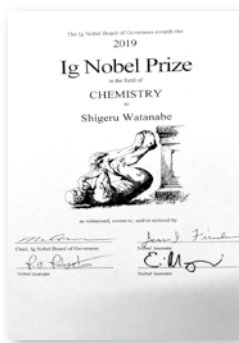
指定を受け、今後は、日本学術会議から当学会で開催する学術会議などについてのニュース配信や共催・後援などが行われるようになります。

渡部 茂 理事が 「イグ・ノーベル賞」を受賞！

人々を笑わせ、考えさせる独創的な研究に贈られる「イグ・ノーベル賞」の2019年度の授賞式が9月12日にアメリカのハーバード大学で行われ、日本子ども学会理事で第7回学術集会の大会長を務められた明海大学の渡部茂教授らの研究グループが科学賞を受賞しました。

受賞対象となった論文は、渡部先生が北海道医療大学歯学部助教授だった時代に同僚とともに4年をかけて研究し、1995年に執筆したもので、男女15人ずつの5歳児に6種類の食物を咀嚼後吐き出させ、一口量、咀嚼時間、回収率等を綿密に計算して食事時の唾液量を算出した。そして、食事以外の時間と合わせて「5歳児の1日あたりの総唾液分泌量が500ミリリットル」に上ることを突き止めました。

授賞式では、渡部先生とともに、かつて被験者となった3人のご子息も登壇して当時の様子を再現。イグ・ノーベル賞の授賞式らしく、会場は温かな笑いに包まれました。



主催者代表と、過去のノーベル賞受賞者のサイン入り賞状



渡部先生の3人のご子息が30年前の実験を実演。爆笑を呼んだ

渡部 茂 (わたなべ・しげる)

1951年生まれ。歯学者、歯科医師。明海大学保健医療学部教授。日本子ども学会理事。日本子ども虐待防止歯科研究会会長。1977年、岐阜歯科大学卒業。東日本学園大学助教授、Manitoba大学客員教授、明海大学歯学部教授を経て、2018年より現職。主な著書にMACRO TO NANO SPECTROSCOPY (Jamal Uddin ed. INTECH)ほか多数。専門は小児歯科学。